

岩手郡医報

高橋 孝先生 書



岩手郡医師会

No.94/2010年6月

目次 CONTENTS

巻頭言 岩手県医師会 会長 及 川 忠 人	1
新担当理事紹介	2
平成22年度岩手県医師会 事業計画	3
平成22年度岩手県医師会 活動方針	4
各担当別事業計画	5
特別寄稿 顧問 高橋牧之介	6
総会議事録 平成21年度第2回岩手県医師会通常総会	7
総務会議事録	13
役員会議事録	14
各種行事報告	16
平成22年度岩手県医師会等行事予定	17
TOPICS	18
第62回岩手県医師会親睦野球大会の開催の案内	27
感謝状	28
会員の入会・退会・異動等	29

表紙切り絵 高橋 孝

啄木の歌集「忘れがたき人々」の中にある一編ですが、近頃では矢車草も外でみかけなくなりました。

「函館の青柳町こそ かなしけれ
友の恋歌 矢ぐるまの花」

巻頭言



地域社会を支える医師会を目指して

社団法人岩手郡医師会 会長 及川 忠人

平成22年度が始まってから3ヶ月を経過し、鳩山政権が普天間基地の課題で責任をとり、菅首相が第94代内閣総理大臣に選ばれ、9ヶ月続いた鳩山政権から新政権へと激動の政治情勢となりました。この間日本医師会長として原中勝征氏が選出され、日本医師会、岩手県医師会、そしてまた我が岩手郡医師会もあり方が問われる厳しい時代となりました。

平成22年度社会保険診療報酬は0.19%のプラス改定となり、医療崩壊を避けるためには不十分といわざるを得ません。また5年間で2兆円の社会保障費の削減方針が撤廃され、地域医療を支えることが最重要課題とする医師会にとっては胸をなで下ろす出来事であり、昨年の政治の大きな流れとそれに続く政権交代により実現したと言えます。

さて地域医療崩壊の波は我々の郡医師会にも押し寄せ、その波を如何に避けまた乗り越えるかが、医師会の喫緊の課題であります。その背景には医師不足、看護師不足等を中心とする医療機能不全状態に陥ることがその本態であると思います。岩手郡医師会の構成は1市3町1村の広範な各地域により構成され、各地域の地域医療崩壊を防ぐために、各地域を繋ぐネットワークの構築とその具体的検討が急務であると思われます。

地域医療現場は地域医療を維持・継続することで精一杯で余裕がなく、各地域の医師会会員自身の健康管理および地域医療の質的確保は各地域の医師会会員のご支援に依存しているのが現状であります。したがって各地域医療の課題をリアルタイムで把握しその対応を早急に図り、その対応の時間のずれを小さくする努力が求められています。今年度はこれらの地域医療の水準を保持し、地域医療を確保するための医師会活動を如何に具体的に展開するかを検討する年度にして参りたいと思います。

これらの目的を実現するためには、郡医師会会員諸先生方の日常の医師会活動へのご支援ご協力が必須であります。これらの諸活動に汗を流し、困難な問題に真摯に立ち向かうことが、地域医師会としての責任として問われていると思われます。日頃の各医師会会員自身の医師会活動への総和が医師会を支える源であると確信するものです。

江戸時代の末期の儒学者であった佐藤一斎は「自ら欺かず、これ天に仕うるという」「凡そ事をなすには天に仕うるの心あるを要すべし」と言志四録の中で述べております。またフーヘランドの医戒には「他の為に生じて己れの為にせず、これ則ち医業の本体なり」とあります。江戸幕末明治維新の時代とは我々が生きる時代とは比較できませんが、郡医師会会員諸先生におかれましては、医療の本質を踏まえ、地域医療保持が地域活性化に直結し地域社会を支えることになることを真剣に受け止めて、地域医療活動に精進されますことと、加えて医師会活動への参加を心からお願い申し上げる次第であります。今年度の医師会活動への方向と想いを申し上げまして郡医報の巻頭言に替える次第であります。

新 担 当 理 事 紹 介



及川 忠人

会 長



高橋 牧之介

顧 問



高橋 孝

参 与



篠村 達雅

副会長／総務／地域医療／
診療所／医師連盟



久保谷 康夫

副会長／総務／
医療保険／医師連盟



高橋 邦尚

副会長／総務／広報／
健康教育／診療所



栃内 秀彦

総務／地域医療／
勤務医



紺野 敏昭

総務／広報／
生涯教育



佐々木 久夫

地域医療／医療保険／
学校保健



森 茂雄

地域医療／産業保健



土井尻 健一

地域医療／健康教育



高橋 真

産業保険／広報



山口 淑子

学校保健／
岩手県医師会常任理事



植田 修

学校保健／広報／
生涯教育／健康教育



高橋 明

勤務医



西島 康之

監 事



北上 明

監 事



中軽米正行

太田 敬吾 事務局長

平野 隆

事 務 局

■ ■ ■ ■ ■ 平成22年度岩手郡医師会 事業計画 ■ ■ ■ ■ ■

世界的不況の嵐の中で、日本の社会的経済的状況はデフレスパイラルの進行が危惧され、予断を許さない状況である。また昨年9月に政権交代が現実のものとなり、診療報酬改定も10年ぶりのプラス改訂が実施されるが0.19%の小巾に止まり期待外れと云わざるを得なくなったように思われる。しかし依然として診療報酬決定の新たなプロセスが見えにくい状況であり、様々な課題が山積している。

一方、地域医療崩壊は、一昨年11月に示された県立病院の病床削減計画はすでに実施され、民間移管等の様々な具体的方策が検討されている。加えて慢性的医師不足が依然として進行し地域医療の崩壊へ歯止めがかからない状態であり、それを防ぐ方策が見あたらない。いずれ医師不足の課題を解決するためには、長期の時間的経過とさらなる具体的対策が必要であり、これらの根本的解決が依然として喫緊の課題である。

岩手郡医師会は、地域医療の確保を最も重要な役割・使命として受け止めて、厳しい現状を把握しつつ地域医療を確保するための具体的対策を模索検討して参りたい。また地域住民への健康啓発活動並びに健診

事業そして生活習慣病予防事業等を主体に地域の支援活動を継続し、少子高齢化社会への伸展に対応する努力をすることを目指して参りたい。また各地域における保健・医療・福祉の連携を重視しつつ地域医療の確保・維持に努力を重ね、安心して暮らせる地域社会の維持・構築を目的として次の事業を展開して参りたい。

- (1) 医の倫理と生命倫理の向上
- (2) 県医師会事業への全面協力
- (3) 医政の強化
- (4) 会員の自浄作用の活性化
- (5) 地域医療の確保・維持・強化
- (6) 生涯教育への実践
- (7) 会員福祉の充実
- (8) 医療経営の適正化
- (9) 保険医療の適正化
- (10) 地域住民の健康啓発ならびに生活習慣病予防の充実
- (11) 地域リハビリテーションへの啓発の活発化
- (12) 介護保険事業への支援・啓発
- (13) 地域医療連携活動への支援と協力
- (14) 特定健診事業の多面的検討と見直し
- (15) 健全なこどもの育ちへの支援・啓発
- (16) 認知症の地域啓発活動への支援
- (17) 自殺予防の啓発活動への支援

(アンダーラインは今期新たに追加したもの)

■ ■ ■ ■ ■ 平成22年度岩手郡医師会 活動方針 ■ ■ ■ ■ ■

すでに平成21年1月30日に開催されました通常総会において社団法人岩手郡医師会平成22年度事業計画が承認され、新年度からの計画の骨子となるわけであります。

しかしながら現実を目を向けてみると地域医療は崩壊の危機に瀕していることは誰もが痛感しこれではいけないと考えているわけであります。地域の医療崩壊はやがて地域社会の存立等にも関わり将来の地域のあり方に大きな影響を与えることは間違いありません。

岩手郡医師会は一市三町一村の岩手山麓を中心とする広範な地域社会の地域医療を担い、その活動を諸先輩方の高邁な見識と努力の積み重ねにより高い評価を得て参りました。

また昨今の医師不足等に起因する地域医療の崩壊現象は我々の医師会の足下にまで及んで来ております。そもそも我々の守るべきものは岩手郡・八幡平市管内の地域住民の健康と生命であり、それを支える地域医療活動であります。またこのような内外の政治活動が不安定でしかも不透明な中で我々医師会会員はそれぞれの地域で信頼に足る地域医療を提供することはもちろんですが、それに加えて何をなすべきか、医師会は何を目指し、地域住民の声に耳を傾け福祉、介護との連携を如何に保つべきか。沢山の課題が山積されております。

このような中で、平成22年度岩手郡医師会の重点活動方針を次のように定めて、岩手郡医師会の諸活動の吟味と将来展望に繋いで参りたいと願うものです。郡医師会会員の御支援と御協力を心からお願い申し上げる次第であります。

- 1 地域医療連携活動への支援ならびに福祉・介護関係者への啓発活動の活発化
- 2 岩手郡医師会に適応する医師会会員相互の情報連絡等の通信網の構築のアウトラインを先進地区に学び、通信網構築等の具体的計画を策定する
- 3 総務会機能等の役割と分担を明確化して、各種委員会活動の活発化を図る
- 4 公益法人の移行のあり方を再吟味して今後の手続き及び課題を検討する
- 5 健全なこどもの育ちへの支援・啓発につとめる
- 6 認知症の地域啓発活動への支援を活発化する
- 7 自殺予防への啓発活動を支援する
- 8 地域医療を支える学術研修活動を充実ならびに活発化させる

各 担 当 別 事 業 計 画

会 長 及川忠人
副 会 長 篠村達雅・久保谷康夫・高橋邦尚
総 務 篠村達雅・久保谷康夫・
 高橋邦尚・栃内秀彦・紺野敏昭

- 1 近隣郡市医師会との連携の充実
- 2 医療情報システム(IT化)の啓発と充実
- 3 災害時医療救護体制の充実
- 4 自浄作用の活性化
- 5 医療安全の推進・医療事故防止対策の啓発
- 6 医療制度改革への対応
- 7 公益法人制度改定への対応

地域医療 栃内秀彦・篠村達雅・
 佐々木久夫・森 茂雄・
 土井尻健一

- 1 医師・看護師不足への対応
- 2 感染症対策の強化
- 3 各地域包括支援センター及び地域リハ体制構築への支援
- 4 医療保健福祉との連携強化
- 5 地域住民への地域医療の啓発
- 8 特定健診事業への対応

医療保険 佐々木久夫・久保谷康夫

- 1 適正な保険診療への啓発活動の充実
- 2 保険診療への敏速な情報提供
- 3 保険診療に関わる研修の充実
- 4 関係行政機関との連携の強化

産業保険 森 茂雄・高橋 真

- 1 産業医活動および研修事業の充実
- 2 岩手産業保健推進センターとの連携の充実
- 3 メンタルヘルス事業の充実と地域保健への支援
- 4 産業医実地研修事業の発掘とその拡大
- 5 地域保健との連携

学校保健 山口淑子・佐々木久夫・植田 修

- 1 健全なこどもの育ちへの啓発
- 2 児童・生徒のこころとからだの健康維持(継続)
- 3 思春期保健、性教育の積極的取り組み(継続)
- 4 地域学校保健会の活発化(継続)
- 5 就学前児童に対する保健活動の推進(継続)
- 6 市町村を超えた学校保健への連携協力(継続)

7 郡医師会管轄下の学校医等に実態の把握の充実(継続)

勤務医 高橋 明・栃内秀彦

- 1 医師臨床研修制度への対応
- 2 地域に於ける勤務医とかかりつけ医との連携体制の充実・強化
- 3 勤務医に魅力ある医師会活動の実施
- 4 勤務医の就業環境実態の課題とその把握

広 報 高橋邦尚・紺野敏昭・
 植田 修・高橋 真

- 1 積極的な広報活動の推進と広報委員会活動の充実
- 2 岩手郡医報の内容吟味および充実
- 3 地域住民への医療情報広報活動の充実
- 4 広報の位置づけならびに編集協力者の拡大

生涯教育 紺野敏昭・植田 修

- 1 生涯教育制度への啓発および向上
- 2 生涯教育研修への積極的参加の促進
- 3 自殺予防への啓発
- 4 認知症サポート活動への支援・啓発

健康教育 植田 修・高橋邦尚・
 土井尻健一

- 1 市町村民健康講座の実施
- 2 健康啓発活動および予防活動の積極的参加の推進
- 3 スポーツ医学の啓発と地域スポーツ活動への支援
- 4 メタボリックシンドロームへの啓発活動の継続

診療所 篠村達雅・高橋邦尚

- 1 在宅診療の充実
- 2 かかりつけ医と病院・診療所との連携の強化
- 3 診療所機能の介護保険・福祉との連携強化

医師連盟 篠村達雅・久保谷康夫

- 1 国政選挙への協力・対応
- 2 各地域での医師会活動の活発化
- 3 国民皆保険制度堅持への啓発
- 4 地域医療崩壊を防ぐための支援活動の充実
- 5 医政への啓発活動の充実・推進

特別寄稿



岩手県医師会役員退任の回顧録

顧問 高橋 牧之介

この度、県医師会常任理事就任から副会長9期を含む24年間の役を退くことになりました。長年にわたり公私共にご指導を賜りました諸先輩と、常に温かいご協力を頂きました医師会員の皆様に心から感謝しております。「老人は過去を語り、己を自慢する。青年は未来を語り希望を夢見る」と言われますが、在任中の日々を振り返っても何一つ自慢の種はありません。

常任理事に就任した昭和61年前後は、新幹線の水沢江刺駅と新花巻駅誕生の頃であり、岩手にもいよいよ高速交通時代の幕が開かれ、医界の進歩も例年速度を増し、これに伴い医療の世界においても医師患者間に於いて従来のパターンリズムでは対応出来ず新たな課題を抱えることになりました。

岩手県保健医療計画の資となる各種調査活動と、予防医学の啓蒙に健康教育センターを活用、予防医学協会はもとより北海道・東北各県との提携により日本医師会の中核に東北代表の多くを送り改革期を支え続けた日々を忘れることが出来ません。今政治の世界に新たな動きが生じつつありますが、医療の世界は教育や福祉と共に終わりはなく政変に著しく左右されるべきもの

とは思いません。現在地域医療の諸問題が宣伝されつつありますが、本県の場合広大な県土を有するが故の悩みであり県立病院発足当時から、その予後を危惧された節があります。それにつけても包括医療の中で予防医学の重要性が更に高まるものと考え、今後は微力ながら協会の充実に務めてまいり所存であります。

色々と感じたことを述べさせて頂きましたが、我々の医師会も全く同様であり、今まさにそんな時期にあるのではないかと考えさせられます。

要は日本医師会・県医師会あつての地域医師会ではなく、地域医師会あつての県医師会となるべく、地域医師会がそれなりの活性化、充実をはかるべきであります。

そしてその大前提は、各会員が医師会活動により積極的に参加することに尽きると言えると思います。

これからの我々の医師会の在り方は、多方面に亙り活動のより活発な、より会員参加型の医師会にならんことを願っております。

今後とも会員として倍旧のご指導、ご協力をお願い申し上げ役職退任のご挨拶いたします。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

平成21年度 第2回岩手郡医師会通常総会

招集通知日：平成22年1月8日(金)
 日 時：平成22年1月30日(土)
 16時30分～
 場 所：盛岡市盛岡駅前通1番44号
 ホテルメトロポリタン盛岡
 本館 4階 岩手の間
 総 会 員 数：92名

出席会員数：33名
 委任出席数：45名
 司 会：副会長 栃内秀彦
 開 会：副会長 篠村達雅
 議 長： 飯島 仁
 議事録署名人：木村秀孝、田村公一
 閉 会 挨拶：副会長 栃内秀彦

■■■■ 会 長 挨 拶 要 旨 ■■■■

岩手郡医師会会長 及川 忠人



昨年は新型インフルエンザに始まり、インフルエンザに終わった一年とも言えるのではないかと思います。日本のインフルエンザ対策は非常に的確であると国際的には評価されております。またようやく流行のピークも過ぎて、それぞれの医療機関の諸先生方におかれましては、少しほっとされているのではないかと察し申し上げます。新型インフルエンザに対応についての御支援をこの場をお借りして、心から感謝申し上げます。

さて、政権交代により新政権が発足して、その対応としての日本医師会の立場の変転が目立つ昨今で御座います。特に中医協委員が激減する等の変化に大きな驚きを

覚える方も多かったのではないかと思います。昨日の鳩山総理の所信表明演説では「いのちを守る政治」を強調して、インドのガンジーの哲学を引用しておりました。

これらの民主党政権発足後の評価は如何になされているのでしょうか。当初民主党政権の看板と言える「官僚主導から政治主導へ」・「脱官僚依存」は少なくとも外的外れであったことは事実であり、医療政策そのものは自民政権時代から一貫して「政治主導だった」からであります。民主党マニフェストでは「総医療費対GDP比をOECD加盟国平均まで引き上げていきます」という総選挙公約に早くも違反しています。

また事業仕分けの「民間有識者の選任基準・プロセスが全く公開されていなくて、その委員として、公的医療費の抑制と混合診療の全面解禁、株式会社の医療機関経営解禁をストレートに主張した委員が選任されていることも驚きであります。このようなプロセスが不明瞭な中で社会保険診療報酬の改定がなされていることに、我々医師会員は注目する必要があると思われます。今後、地域の実情に相応な医療政策に取り組む努力が必要になってきているのではないかと、政治連盟は医師会と表裏一体としてきたが、現実には政党政治の実情や課

題をどのように捉えて、我々の進むべき道のりを明確にするか等、医師会活動および医師会自体の見識が問われることが多くなるのではないかと思います。

現状では夏の参議院選挙が大きな政治日程であるわけではありますが、郡市医師会レベルの政治のあり方が問われていると思います。少なくとも地域医師会が抱える課題をしっかりと今後捉えて進むことが大切であると思われます。

特に医療は政治の場で決まると言われて参りましたが、政権交代になり、社会保障費の削減方針はなくなり、社会保険診療報酬の改定が0.19%にプラス改訂されたことは、ここ十年なかったことで、喜ぶべきでありましょう。しかし残念ながらその改定率が0.19%では不十分であります。しかし医師会の立場として、これまでの総和2兆円の医療費抑制についての「重い枠組み」が消えたことは何とも有り難い話であります。

平成23年度には廃止の予定の介護療養病床については、予定通り廃止する方向のようですが、地元の療養難民を極力最小に押さえる支援活動が今から真剣に検討する必要があります。また介護保険関係の処遇の問題は大きな課題を抱えております。医療型療養病床、一般病床はやはり大きな削減目標が未定ではありますが、これからの高齢者医療制度の見直し、少子高齢化社会への対応も含めて、大変重要な課題であろうと思われます。

さて一昨年の岩手県医療局による県立病院・診療所の縮小と閉鎖については大変な政治的な課題になりました。数日前に報道されましたが、岩手県立病院のあり方の検討委員会が発足して、県営医療のあり方の根本が問われることになりました。今後の県営医療のあり方を検討することはとても重

要なことであると思われます。小規模病院や有床診療所等の縮小ならびに閉鎖は、地域に与える影響が大きいと思われます。そして、地域医療の役割そのものが無くなると地域には住む人が次第に少なくなり、人口が極限に少ない地域が増えるような方向に進むのではないかと危惧されます。

これらの反省を踏まえて、県内各医療圏毎に、昨年述べ5回に亘り地域医療に関する懇談会が開催され、地域住民の代表を含めて地域医療体制のあり方および今後の方向等を継続的に検討することになり、その行動計画が策定されました。地域住民への啓発・広報活動、住民活動への支援、医療機関、介護施設への取組、医療連携の推進、話し合いの場の設置、県に対する提言、国への要望等が検討され、継続的にその進捗状況をチェックすることが申し合わせされました。殆どの内容が郡医師会活動計画に含まれております。

医師会活動の基本とは繰り返すようですが地域医療の現場を日常臨床活動を通して守ることが原点ではないでしょうか。昨今医師不足による医療崩壊現象が盛んにマスコミに取り上げられておりますが、それを如何に確保・保持するかはとても重要な課題であると思われます。岩手県医師会の守備範囲は滝沢村のような副都心的なベッドタウンの地域医療とさらに、対照的であ



が、葛巻町のような医療機関が限られている地域、そしてさらに、八幡平市における限界集落が多数存在する過疎地域等、様々な異なる地域性を抱えた地域でもあり、今後これらの地域の実情にあった地域医療の確保・維持への活動を検討する必要があると思われます。

地域医療を何とか守るためには、ご高齢の開業されている諸先生方の様々なご支援が若い世代に至るまで先生方等の全世代にまたがる継続的な活動が依然として必要であり、それらを如何に支えて行くか、また地域医療の質の確保を如何に進めて行くかが最も重要な課題であります。これらの日常活動の総和が地域住民の信頼を勝ち取ることに繋がるものと思います。古代スカンジナビアの紋章はツルハシで、そこには「われは道を探す。道なくば道をつくる」との語句が刻まれております。この「道なくば道を作る」という使命感を大いに学んで、郡医師会活動を進めて参りたいものであります。今後、地味な医師会活動の継続が極めて大切であり、岩手郡医師会会員のさらなるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げまして、平成21年度岩手郡医師会第二回通常総会の郡医師会会長としての挨拶に替える次第であります。

■■■■ 活 動 報 告 ■■■■

議長が担当部会報告を求め、高橋邦尚総務担当理事より下記の報告があった。

①総務

理事会、総会の準備を中心に活動し、特に新型インフルエンザにつきましては、県央保健所の六本木所長およびスタッフの皆さまからの説明を受け、対策を検討いたしました。また、医師会の新法人移行につい

ての話題もありました。

②地域医療

9月25日、岩手県における災害医療の現状と題して、県立中部病院の真瀬 智彦先生からご講演をいただきました。10月15日には岩手郡糖尿病対策推進委員会にて講演会を行い、県立中央病院の菅原 隆先生にご講演をいただきました。

④産業医

10月17日に、八幡平アステラス東海株式会社西根工場におきまして、岩手大学立身先生の産業疲労についてのご講演がありました。48名の参加がありました。11月7日産業医部会の幹事会が行われております。

⑥勤務医

中央の勤務医部会でも明らかな動きはなく特にご報告すべきことはございません。

⑦広報

年に1回の広報発刊を行いました。

⑧生涯教育

県医師会に対して、各種講演会4回を、生涯教育の点数おのおの5単位を申請いたしております。

⑨健康教育

11月6日市民健康講座として八幡平市で行われました。インフルエンザの予防について、岩手医大桜井 滋先生からご講演いただきました。

9月には葛巻町において、岩手医大救急センター吉川 智宏先生および葛巻の医師会の先生からお手伝いいただきまして、救急蘇生の実地訓練を行っております。

⑩ 診療所

2月25日に第2回在宅医療の症例検討会が行われる予定です。

⑪ 医師連盟

冒頭に及川会長からお話があったとおりです。

⑬ 医療保険

次いで、久保谷康夫理事より3. 医療保険についての報告があった。

今年度は診療報酬改定がなかったので特別な報告はないのですが、3月末に平成22年度の診療報酬改定説明会が県民会館だと思いますが、今度は県ではなく東北医政局からの説明になるので、1回でまとめて実施するそうです。時間とかは後でご案内が行くと思います。

本日、中医協の平成22年度の診療報酬改定の骨子が出ました。月曜日にも医師会から、全部で30ページくらいあるので重要な部分を、FAXしていただきます。

もし全文を見たい方は、久保谷あてにメールをくだされば、全文が見れるようにします。皆さんに関係あるところでは湿布はそのまま残ったようです。

介護療養病床の廃止は予定通り23年度末で廃止となるようです。

⑤ 学校保健

最後に、山口淑子理事より5. 学校保健についての報告があった。

21年度は、岩手県には肥満の子供が、10歳は全国1位という不名誉なデータが出まして、県央保健所で肥満予防・メタボ予防をしようということになりまして、メタボ予防生き生きキッズ大作戦というのが始まりました。

葛巻町、岩手町、八幡平市が肥満が多い

ということもありまして、岩手郡が選ばれてましてその大作戦に取り組んでいます。

来年度も保健所で進めるといいますので、学校医をやっている先生方にご相談があるかと思しますのでよろしくお願いします。

活動報告については、特に質問・意見はなかった。

■■■■ 協 議 事 項 ■■■■

続いて議長は協議事項に入った。

第1号議案 平成21年度岩手郡医師会一般会計補正予算（案）について

第2号議案 平成21年度岩手郡医師会休日当番医会計補正予算（案）について

第3号議案 平成21年度岩手郡医師会特別会計補正予算（案）について

議長より、第1号議案、第2号議案、第3号議案は関連あるため一括して上程する旨説明要請があった。

続いて、篠村達雅理事より、別紙資料2・3・4に基づき説明があった。

第1号議案および第2号議案並びに第3号議案については、特に質問・意見もなく、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

第4号議案 平成22年度岩手郡医師会事業計画（案）について

高橋邦尚理事より、別紙資料5に基づき説明があり、特に（15）から（17）は新たな取り組みである旨の報告があった。

第4号議案については、特に質問・意見もなく、議長がこれを諮ったところ、全員異議なく、原案通り満場一致をもって、承認し可決された。

第5号議案 平成22年度岩手郡医師会一般

会計歳入歳出予算（案）について

第6号議案 平成22年度岩手県医師会休祭
日当番医会計歳入歳出予算（案）について

第7号議案 平成22年度岩手県医師会特別
会計歳入歳出予算（案）について

議長より、第5号議案、第6号議案、第
7号議案は関連あるため一括して上程する
旨説明要請があった。

続いて、紺野敏昭理事より、別紙資料6・
7・8に基づき説明があった。

第5号議案および第6号議案並びに第7
号議案については、特に質問・意見もな
く、議長がこれを諮ったところ、全員異議
なく、原案通り満場一致をもって、承認し
可決された。

第8号議案 岩手県医師会役員改選（案）
について

役員選出委員会の篠村達雅委員長から、
平成22年3月31日をもって、理事および監
事の任期が満了退任となりますので、その
後任を選任する必要があり、役員選出委員
を9名選び、11月7日、1月13日に役員選
出委員会を開催しました。別紙資料9-1
のとおり13名の理事と2名の監事立候補が
ありましたが、総会での承認をいただくた
め上程する旨説明があった。

理事および監事立候補者は次のとおりで
ある。

岩手県岩手郡滝沢村字穴口183番地3

理 事 植 田 修



岩手県盛岡市紅葉が丘27番21号

理 事 及 川 忠 人

岩手県盛岡市天昌寺町7番15号

理 事 久保谷 康 夫

岩手県盛岡市西青山三丁目36番8号

理 事 紺 野 敏 昭

岩手県岩手郡岩手町大字沼宮内第7地割48
番地11

理 事 佐々木 久 夫

岩手県岩手郡雫石町10地割字寺の下61番地1

理 事 篠 村 達 雅

岩手県盛岡市緑が丘三丁目12番4号

理 事 高 橋 明

岩手県盛岡市前九年二丁目10番27号

理 事 高 橋 邦 尚

岩手県盛岡市北松園二丁目32番3号

理 事 高 橋 真

岩手県盛岡市上田四丁目13番25号

理 事 土井尻 健 一

岩手県盛岡市東山一丁目26番10号

理 事 柄 内 秀 彦

岩手県八幡平市大更第25地割117番地2

理 事 森 茂 雄

岩手県盛岡市住吉町六丁目8番

理 事 山 口 淑 子

岩手県盛岡市山岸六丁目34番17号

監 事 北 上 明

岩手県岩手郡葛巻町葛巻第13地割45番地3

監 事 西 島 康 之

議長が、役員選任について、これを諮っ



たところ、満場一致をもって、承認し可決された。

なお、被選任者全員は、その就任を承諾した。

《臨時理事会》

議長より、岩手郡医師会定款の定めに従い、会長1人と副会長3人以内を互選するため新役員は別室で協議しますので暫時休憩する旨説明があった。

《新役員紹介》

枅内秀彦理事から、理事の互選により決定した事項の報告が次のようにあった。

会 長 及 川 忠 人 理事
副会長 篠 村 達 雅 理事
副会長 久保谷 康 夫 理事
副会長 高 橋 邦 尚 理事

次いで、及川忠人会長より、岩手県医師会の役員推薦等について、下記のとおり推薦したいので承認願いたい旨説明があった。

岩手県医師会理事として

紺 野 敏 昭 先生

岩手県医師会代議員として

及 川 忠 人 先生

同上

久保谷 康 夫 先生

岩手県医師会予備代議員として

枅 内 秀 彦 先生

同上

土井尻 健 一 先生

岩手郡医師会顧問として

高 橋 牧之介 先生

岩手郡医師会参与として

高 橋 孝 先生



議長が、岩手県医師会の役員および代議員並びに予備代議員の推薦と岩手県医師会の顧問および参与の委嘱について諮ったところ、全員異議なく、満場一致をもって、承認し可決された。

《その他》

議長が、その他提案事項があるかを糺したところ特に発言はなかった。

以上議事を終了

17時50分 枅内秀彦副会長が閉会を宣言した。

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 総 務 会 議 事 録 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

■■■■ 第5回岩手郡医師会総務会 ■■■■

日 時：平成21年12月8日(火)
19:00～

出席者：及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、
紺野敏昭、高橋邦尚

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

報告事項

- (1) 地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会（10月28日）について
- (2) 第1回岩手郡医師会役員選出委員会（11月7日）について
- (3) 第3回盛岡医療圏・地域医療に関する懇談会について
- (4) 日本医師会費及び賦課徴収規定の一部変更について

協議事項

- (1) 法人移行に関する経過について
- (2) 第5回役員会について
- (3) 今後の予定について

■■■■ 第6回岩手郡医師会総務会 ■■■■

日 時：平成22年1月6日(水)
19:00～

出席者：高橋牧之介、及川忠人、篠村達雅、
栃内秀彦、紺野敏昭、高橋邦尚

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

報告事項

- (1) 新型インフルエンザワクチン供給体制等の課題について

協議事項

- (1) 平成21年度岩手郡医師会一般会計補正予算（案）について
- (2) 平成21年度岩手郡医師会休祭日当番医会計補正予算（案）について
- (3) 平成21年度岩手郡医師会特別会計補正予算（案）について
- (4) 平成21年度岩手郡医師会事業計画（案）について
- (5) 平成22年度岩手郡医師会一般会計歳入歳出予算（案）について
- (6) 平成22年度岩手郡医師会休祭日当番医会計歳入歳出予算（案）について
- (7) 平成22年度岩手郡医師会特別会計歳入歳出予算（案）について
- (8) 平成21年度第2回通常総会（案）について
- (9) 第2回岩手郡医師会役員選出委員会（案）について
- (10) 今後の岩手郡医師会行事予定について
- (11) 法人移行に関する経過について

その他

- (1) 休日当番医制の患者数について

■■■■ 第2回岩手郡医師会臨時総務会 ■■■■

日 時：平成22年 2月15日(月)
19:00～

出席者：及川忠人、篠村達雅、栃内秀彦、
紺野敏昭、高橋邦尚

場 所：奥羽キリスト教センター
(財)みちのく愛隣協会事務室

協議事項

- (1) 岩手郡医師会選出に係る役員推薦の変更協議等について
- (2) 平成22年度岩手郡医師会役員会等の日程(案)について

■■■■■■■■■■ 役 員 会 議 事 録 ■■■■■■■■■■

■■■■■ 第5回岩手郡医師会役員会 ■■■■■

日 時：平成21年12月15日(火)
19:00～

出席者：西島康之、及川忠人、篠村達雅、
栃内秀彦、久保谷康夫、森 茂雄、
山口淑子、高橋邦尚、紺野敏昭、
高橋 真、植田 修

場 所：ホテル東日本
4階 椿の間

報告事項

- (1) 地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会(10月28日)について
- (2) 第1回岩手郡医師会役員選出委員会(11月7日)について
- (3) 第3回盛岡医療圏・地域医療に関する懇談会に係る地域医療体制の確立を目指すための行動計画(案)について
- (4) 郡市医師会長協議会・医師連盟執行委員会(12月12日)について
- (5) 日本医師会費及び賦課徴収規定の一部変更について
- (6) 滝沢村の休日当番医に係る複数化の継続について

協議事項

- (1) 法人移行に関する経過について
- (2) 今後の郡医師会活動(予定)について
- (3) 新型インフルエンザワクチンの高校3年生への接種について

■■■■ 第6回岩手県医師会役員会 ■■■■

日 時：平成22年1月20日(水)

19:00～

場 所：ホテルニューカリーナ

2階 シルキー

出席者：西島康之、及川忠人、篠村達雅、
栃内秀彦、佐々木久夫、久保谷康夫、
森 茂雄、山口淑子、高橋邦尚、
高橋 明、紺野敏昭、高橋 真、
植田 修

報告事項

- (1) 新型インフルエンザワクチンの配分方法の変更について

協議事項

- (1) 平成21年度岩手県医師会一般会計補正予算（案）について
- (2) 平成21年度岩手県医師会休祭日当番医会計補正予算（案）について
- (3) 平成21年度岩手県医師会特別会計補正予算（案）について
- (4) 平成21年度岩手県医師会事業計画（案）について
- (5) 平成22年度岩手県医師会一般会計歳入歳出予算（案）について
- (6) 平成22年度岩手県医師会休祭日当番医会計歳入歳出予算（案）について
- (7) 平成22年度岩手県医師会特別会計歳入歳出予算（案）について
- (8) 平成21年度第2回通常総会（案）について
- (9) 岩手県医師会役員選出委員会の経過報告について

その他

- (1) 休日当番医制の患者数について

■■■■ 第7回岩手県医師会役員会 ■■■■

日 時：平成22年3月25日(木)

19:00～

場 所：サンセール盛岡

2階 桐花

出席者：高橋 孝、西島康之、及川忠人、
篠村達雅、栃内秀彦、佐々木久夫、
久保谷康夫、山口淑子、高橋邦尚、
高橋 明、紺野敏昭、高橋 真、
植田 修

報告事項

- (1) 第162回岩手県医師会定時代議員会（2月27日）について
- (2) 岩手県医師連盟執行委員会（2月6日）について
- (3) 岩手県医師連盟代表者会（2月27日）について
- (4) 岩医厚生株式会社臨時株主総会（2月27日）について
- (5) 第163回岩手県医師会臨時代議員会（2月27日）について
- (6) 平成21年度勤務医部会総会・病院部会総会・合同講演会（3月6日）について

協議事項

- (1) 平成22年度岩手県医師会事業計画・活動方針（案）について
- (2) 岩手県医師会各種委員会委員ならびに部会幹事の推薦（案）について
- (3) 岩手県医師会理事推薦の変更について

■ ■ ■ ■ ■ 各 種 行 事 報 告 ■ ■ ■ ■ ■

診療報酬改定説明会

■ 日 時：平成22年 3月20日(土)

■ 場 所：岩手県民会館大ホール

従来各郡市医師会単位で行われていた診療報酬改定説明会が厚生労働省の方針で今回は全県を対象として1回で行われることとなった。各地から参加されたので久しぶりにお会いできた方々も多く懐かしかったが、遠くから来られるのは大変だろうと思われた。

説明の多くは病院対象の事項で、診療所

に関する説明は最後の4分の1くらいであり、参加者の多くは診療所のスタッフであったと思われるため不満に感じられた方が多かったのではないかと推察された。二部構成として、前半を病院対象、後半を診療所対象として集合時間も分けたほうが合理的ではないかと感じた。

(報告者 紺野 敏昭)

みんなの いわてを
医 協
ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険事務代行事業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル 0120-054-222

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/~isikyol>

E-mail isikyol@rose.ocn.ne.jp

 **いわて医師協同組合**
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

■ ■ ■ ■ ■ 平成22年度岩手郡医師会等行事予定 ■ ■ ■ ■ ■

日 時	行 事 名	会 場
3月20日(土)	診療報酬説明会（東北厚生局主催）	県民会館大ホール 15：30～
4月7日(水)	第1回総務会	みちのく愛隣協会事務室 19時～
4月14日(水)	第1回役員会	19時～ ニューカリーナ 2Fシルキー
5月26日(水)	岩手郡医師会 監事会	19時～ ホテル東日本 4F 椿 2F 豪華
6月1日(火)	①広報委員会	みちのく愛隣協会事務室 19時～
6月4日(金)	郡医師会員 集団検診	6：30～ 滝沢村ふるさと交流館
6月9日(水)	第2回総務会	みちのく愛隣協会事務室 19時～
6月16日(水)	第2回役員会	19時～ ニューカリーナ 2Fシルキー
6月26日(土)	岩手郡医師会 第1回通常総会・特別講演会	17時～ ニューカリーナ 2F マーブル
8月4日(水)	第3回総務会	みちのく愛隣協会事務室 19時～
8月18日(水)	第3回役員会	19時～ ホテル東日本 4F 椿 2F 豪華
8月22日(日)	第62回県医師会親睦野球大会 開会式 江釣子球場	北上市医師会担当 江釣子野球場ほか5会場
9月10日(金)	救急蘇生法 講習会	雫石町
9月24日(金)	救急医療対策協議会 会議 16時～ 講演会17時～	ホテル東日本 14F オーロラ
9月26日(日)	岩手県医師会 ゴルフ大会	花巻市医師会担当 盛岡南C C
9月～12月	かかりつけ医 認知症対応研修	4回実施予定
10月	町民健康講座	岩手町
10月13日(水)	第4回総務会	みちのく愛隣協会事務室 19時～
10月27日(水)	第4回役員会	19時～ ホテル東日本 4F 椿 2F 介寿荘
10月16日(土)	岩手郡医師会主催産業医研修会	
10月18日(月)	岩手郡糖尿病対策推進会議学術講演	18：30～ メトロポリタン本館
11月27日(土)	岩手郡医師会 臨時総会	17：30～ ニューカリーナ 2F マーブル
12月8日(水)	第5回総務会	みちのく愛隣協会事務室 19時
12月15日(水)	第5回役員会	19時～ ホテル東日本 4F 椿 2F 豪華
1月12日(水)	第6回総務会	みちのく愛隣協会事務室 19時～
1月19日(水)	第6回役員会	19時～ ニューカリーナ 2Fシルキー
1月15日(土)	岩手県医師会・歯科医師会新年会	16時～
2月5日(土)	岩手郡医師会 第2回通常総会	17時～ NEWWING 桐の間（総会） 桂の間（懇談）

T O P I C S

“大人”であること

高橋 邦尚

高橋牧之助名誉顧問が5月29日をもって
医院を閉じられた。誠にをもって御苦勞様で
した。

私は、郡医師会に入会の挨拶に伺って以
来、幾多のご教示を頂いた。

とにかく、お話される内容が明確で、無
駄な事はお話にならない。

御自身の意見に逃げ場をつくらないか
ら、先生が何を重要と考えているかが、良
く理解できる。

ちにみに、私の記憶に残っているのは…
“ケンカするくらいの気持ちで事にあた
らなければ、何も出来ない”

(確かに少々怖い…)

“これからの医師会は中央から指示を受
けるのではなく、郡から県、県から中
央へという流れをつくる事が肝要”

この二つくらいである。

これ以外にもいろいろ言われた気がする
のですが、まあこれで十分である。

これ以上必要なのは、大酒飲みだった私
の父親が、やっぱり酔っ払いながらよく私
に言っていた“大人になったら他人の金で
酒を飲むことだけはやめろよ”といった言
葉くらいか。

今、かつて存在した“大人”を目の当た
りにすることは、極めて稀な時代になって

いるという実感がある。

ここでいう“大人”とは、いわゆる生来
の個性に年令が磨きをかけたようなセンス
を身に付けている人達のことである。

このような“大人”の方々と出会う事で
しか、私達の年代の“大人”が鍛えられる
ことはない。

この意味で、郡医師会に入会し、以来何
人かの魅力ある先生にお会い出来たこと
は、幸せであった。

医師会会合の後、先生を車で御自宅まで
お送りしたことがある。

当時、御長男が米国に留学されておられ
たので、「先生は米国に旅行する予定はな
いのですか？」と私が問いかけたところ「俺
は絶対に行かない。先の戦争で仲間が相当
死んでいるから。」と小さな声で話された。

過去の歴史を忘れ、“アンチエイジング”
が唱和され、健康主義とあいまって年令よ
り若くあることが誉れの如く言いつのられ
て“大人”の深い魅力が脇に追いやられる
時代。“健康と長寿と家族団欒が得られれ
ば人生それで事足れり”とされる風潮の中
にあって、先生は決してそれだけで良しと
はしておられないように思われてならない。

私は、この先生からやはり目が離せない
のである。

認知症フォーラム あきらめない ～最新医療と社会の支え

紺野 敏昭

■日 時：平成22年 5月16日(日)

■場 所：岩手県民会館中ホール

■主 催：NHK盛岡放送局、NHK厚生文
化事業団、読売新聞社

■後 援：厚生労働省、社団法人認知症の
人と家族の会、岩手県

■協 賛：株式会社ツムラ



超高齢化社会を迎えた今、認知症の患者さんは現在205万人、2035年には445万人との予測も出されています。かつては絶望の病と考えられていましたが、治療薬が使えるようになってから、治療と介護などの分野でめざましい進歩があります。認知症の啓発と最新情報の提供、暮らしをサポートする取り組みを紹介することを主な目的として開催されました。

パネリストは医療の立場からは私のほかに、介護の立場から内出幸美さん（社会福祉法人 典人会 理事・総所長 情報科学博士）、自ら認知症のご主人を最後まで介護された経験をお持ちで社団法人認知症の人と家族の会 岩手県支部世話人の立花美江さんのお二人が席に着いた。コーディネーターはNHKアナウンサーの町永俊雄さんが担当された。町永さんは認知症に対する造詣も深く、「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン地域活動推進委員でもある。

第1部では、最初にオープニングビデオで認知症に対する医療の手立て、本人に寄りそう介護、地域の支えの取り組みが紹介され、認知症になってもその人らしく安心して暮らせるために私たちにできることは何かを考えていきましょう、というアナンスで始まった。

私からはアルツハイマー型認知症の診断と発症の契機となる海馬の萎縮について説明し、一般に誤解されていることとして
1. 海馬には記憶が蓄積されているわけで

はないこと 2. 海馬は記憶の出し入れのコントロールをしていること 3. そのため新しく記憶することが難しくなるが昔の記憶は残っていること 4. 記憶の管理ができなくなるが、ケアの工夫や接し方など周りの働きかけなどである程度は引き出すことができることなどを強調した。次に脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の特徴を述べた。診断には本人・家族から生活歴、性格、病状の経過を詳しくたずねることが大切であることを説明し、そのポイントを示した。治療薬である塩酸ドネペジルの効用とその限界を述べ、効果を示している間に家族が認知症という病気を理解し環境を整えたり心の準備をする時間が持てることも効用の一つであることにも言及した。

ケアの上で負担となることが多い暴言・徘徊などの問題行動は、特にアルツハイマー型認知症では初期から中期にかけては記憶障害、判断力の低下、見当識障害、失行、失認などの中核症状に対してある程度の自覚がある。そのために自分が自分でなくなっていくことへの恐れ、混乱、周囲の状況をうまく把握できないという不安、失敗をすることへの不安などが本人には強い心理的ストレスとなりその結果強い不安が惹起される。そうした不安などが徘徊、妄想、暴言、暴力行為などの症状を引き起こす。これが周辺症状（BPSD）と呼ばれるものであり、その人の性格や今までの生き方によって現れかたは人それぞれである。中核症状（BPSD）は神経脱落症状であり本人の直接の訴えではないが、周辺症状は周りの人に向けた本人の直接の訴えと考えられること、周辺症状（BPSD）だから重要ではないということにはならないことを強調し、本人の不安や喪失感がもたらすものであることを理解する事が重要であり、対処のしかたは暮らしの環境や他人とのかわりを工夫することで本人をよく理解してあげることによって不安を軽減することが基本であることを提示した。

さらにケアの工夫でも周辺症状（BPSD）が軽減できない場合に薬物投与を考慮するが、副作用が少ないとされている漢方薬（抑肝散）の薬理作用の特徴と使い方を説明した。

認知症は医療の力だけでは支えることはできず、介護が大きな力となるがそれだけでは認知症の人を支えるのは難しく、なじみの地域で安心して暮らせる社会環境が必要である。

第2部ではこの点に焦点を絞って展開された。最初に内出幸美さんの施設での症例のビデオ紹介がありケアの工夫の実例が提示され、工夫のポイントと取り組み方について討論された。内出さんからは介護職は肉体労働、知的労働だけではなく、認知症の人の感情を汲み取る感情労働であることの説明があった。本人の今までの人生、食事の好みや生活の楽しみ方、職歴にまつわる人生観・人との接し方をよく理解することが重要であること。一日を自分から生きているのではなく、すべてやらされていると感じていることから発する自分の行動に対する周囲への確認行動からヒントを得て、本人の心の奥にある「自分でもできることがある」、「人の役に立ちたい」「認められたい」という気持ちを捉えることができた。それをうまく引き出すことで本人の生きがいを導き出せた症例であった。私からは、物盗られ妄想は記憶の障害が土台にあること、本人にとってはあくまでも真実

であること、したがって簡単に否定されると当然混乱し、苛立つこと、一般に常に世話になっている人に対して向けられること、感謝の気持ちの裏返しである可能性があることを解説した。認知症ケアのポイントを要約すると、1. 今の生活を観察してやりたいことを理解すること 2. 今できること（残っている能力）に注目する 3. 肯定的な言葉を使う などが挙げられる。コーディネーターの町永アナンサーからは子育てのポイントとまったく同じであるとのコメントがあった。

次に地域の人々が認知症を理解し、その人を自然と受け入れる環境が今求められているが、その取り組みを実践している滝沢村の様子を取材したビデオが紹介された。昔ながらの「結」を回復し、認知症の高齢者を地域住民が見守る取り組み・・・認知症やその可能性のある高齢者を地図上にマッピングしてそばにいる住民同士で協力して認知症の人を支える安心して生活できる地域作り・・・が進みつつある。立花さんから、家と施設の関係だけではなく、地域全体に認知症への理解と受け入れの体制があると町の雰囲気が変わってくる、それは本人と家族にとってはとても大きいとお話があった。実際に認知症のご主人を介護し、努力と周りの仲間たちの暖かくしかも自然な支援に支えられて最後までご主人が地域の人たちとのかかわりを持つことができた経験のお話は感動的であり、説得力のあるものであった。

550人が定員の会場であったが、参加者が入りきれずに開場時刻を早めることになり、ホールに入りきれずにホール前のフロアのモニターで聴いて下さった参加者も多く市民の方々の関心の高さを推し量ることができた。熱心に聴いてくださったことに感謝し、少しでもお役に立てたことを思い会場に向かってそっと頭を下げた。

最後に貴重な機会を与えてくださり、数ヶ月をかけて綿密な準備をしていただいたNHKと読売新聞社に深謝致します。



日本一住みよい八幡平市を考えるフォーラム報告

同上実行委員長 及川 忠人

「日本一住みよい八幡平市を考えるフォーラム」実行委員会委員長に小生が選出され、八幡平市ならびに市内を中心とした約20団体の福祉関係等の後援を得て「フォーラム」がさる5月8日（土）八幡平市民センターで開催され盛会の内に終了したのでその内容の概略を報告する。また合わせて小生がそのフォーラムの中で発題した「我が地域の医療と福祉について」に発表要旨を概説することに致します。

当日は春の晴天に恵まれて、このフォーラムを開催するきっかけ等を実行委員長の小生が説明して、田村八幡平市長および稲葉一戸町長の祝辞を頂いた。

第一部の講演部に入り、デンマークのボウゲンセ在住の日欧文化交流学院長・バンクミケルセン記念財団理事長の千葉忠夫先生から「幸福度世界一のデンマークに学ぶ」と題して基調講演1を拝聴した。千葉先生がデンマークでの活動から43年が経過していることを踏まえて、住みよい国の方程式を説明した。住みよい国とは生活し易い国であり、安心して国民全てが生活を保障される国を意味し、残念ながら日本は経済大国であるが、この方程式には入らないとした。社会福祉国家は民主主義に根ざした国であり、自由・平等・博愛・共生・連帯を大切に作る国であることを協調し、民主主義の基本は主権在民という意識を国民が共有することであると説明した。基調講演2として小生が「我が地域の医療と福祉について」と題して地域医療の課題を中心に八幡平市地域医療懇談会で検討した内容を中心に地域医療の課題を概説した。

第二部に入り、千葉忠夫先生と小生が進行・通訳をしてシンポジウムを行った。講演1はローナ・ホルム・アンデルセン氏が

デンマークの国民学校の校長の立場からデンマークの教育制度の現状を伝えて、学校運営委員会を中心として幼少時代から主権在民の民主主義を徹底的に教えた遊びの大切さを重視して連帯感や共生感を育むことに注意して教育を進めることが発題された。教育には親も教師も責任をもち基本的に学校は楽しいところであり、デンマークでは「いじめ等」は無いとのことであった。

ついでミドルファート市の副市長であるハンナ・ルオウリセン女史が「福祉国家における女性の社会参加につて」と題して9期目の市議員を歴任して今年から人口3万人のミドルファート市の副市長に就任した経過をのべた。デンマークの議員の立場の大切さとデンマークの女性の於かれた社会的推移を説明した。特に安心して子供を産める委託保育体制等と労働力の不足から女性の社会的進出の背景をも分かりやすく述べた。1971年から女性も軍隊に入隊が可能となり、また国の大臣になる半分が女性議員で占められるのが現状であるとのことであった。しかし一朝一夕のこのようになったわけではなく、すべての職業に男女共同参加が必要であるが、まだ不十分であるとのことであった。男女共同参画大臣は41歳の方であり、共同参画の現状を統計的にみると日本は世界では88位に位置するとの指摘が印象的であった。

様々な質問がなされたが、デンマークの歴史教育そして教育体制への質問がなされ、さらの児童手当、労働者最低賃金等を背景にした社会への女性参加についての議論が成された。これらの論議を経て社会福祉・医療・教育・女性の社会参加等の日本との違いが鮮明になり、学ぶことの多いフォーラムになったと思う。

我が地域の医療と福祉

社団法人 岩手郡医師会 会長
財団法人 みちのく愛隣協会 理事長
及川 忠人

日本一住みやすい八幡平市を考えるフォーラム
於 八幡平市市民センター 2010-05-08

我が地域の医療と福祉 発表要旨

- 1) 我が国の保健・医療・福祉
医療崩壊と医師不足の背景
- 2) 八幡平市地域医療の指針
八幡平市医療懇談会の活動
- 3) 八幡平市地域医療の将来
地域医療の本質とは何か
我々のなすべきことは何か

医療崩壊の兆し

研修医の25%、指導医の20%がうつ
「後進に自分が歩んだ生活を強いることはできない」

産婦人科・小児科の閉鎖
内科医退職を契機に、病棟閉鎖
小松秀樹著：医療崩壊―「立ち去り型サボタージュ」とは何か 朝日新聞社 2006

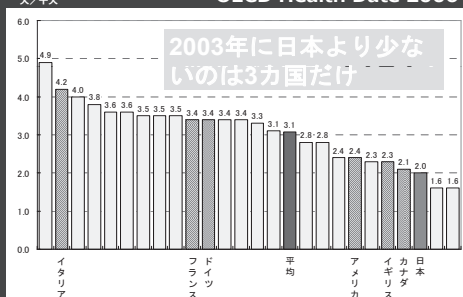
医師偏在ではなく不足

人口10万人に対する医師数は
OECD平均では約290人であるが
日本では約205人であり、
OECDの2006年のHealth Dataでは
日本より医師数の少ない国は
OECD中3カ国のみである

ちなみに人口千人に対する医師
稼働数はOECD平均が3.1であり、
イタリアが4.2 フランス・ドイツが3.4
アメリカが2.4 イギリスが2.3
カナダが2.1 日本が2.0である

稼働医師数(人口千対)(2006年)

OECD Health Data 2006



医療崩壊は何故起こったか

1983年(昭和58年)3月：厚生労働省保険局長吉村仁氏が社会保険旬報に記載した「医療費亡国論」がその発端となる

「いまの医療費は、財政再建・行政改革の上でも予算編成の上でも、租税・社会保障負担の上でも、最大の問題の一つである。(中略)あらゆる面にわたって公共的経費の見直し、洗い直しがおこなわれているのであるが、医療費に対する風当たりは、それが公共的経費の中でも巨額であるし、その伸び率も著しく高いこともあり、このまま増えたと国家がつぶれる危険がある」

医師不足の絶対数不足

1970年「最小限必要な医師数を人口10万対150人」を目標設定
1973年一県一医科大学構想実施
1983年吉村仁氏「医療亡国論」
1997年医学部定員削減閣議決定
2004年新卒後臨床研修制度開始
2006年 OECD Health Data
平均が310人に対して日本は200人にとどまっている

医療崩壊の現状

せっかく無医村解消などを目的に一県一医科大学を整備したにもかかわらず、医学部入学定員削減をスタートして、以降20年に亘って各国が医師を増員させている事実が真剣に検証されることがなかった。

小泉内閣時代に当時全国自治体病院協議会会長の小山田恵氏は「医師は増員すべき」と孤軍奮闘していた。しかし多勢に無勢で「将来医師は過剰になる」との結論で答申がまとめられた
その後年医療費2000億円削減方向が廃止

地域医療懇談会の発足

- 平成17年(2005年)7月29日:旧安代町役場に三町村の組長:旧西根町長 工藤 勝治氏
- 旧安代町長 米川 次郎氏
- 旧松尾村長 佐々木 正四郎氏
- 岩手郡医師会長 及川 忠人氏
- この四氏の打ち合わせで、三町村の合併後に、新制八幡平市の地域医療のあるべき姿を検討会を設置することが、合意された。
- 平成18年12月20日に田村八幡平市長の提唱で、地域医療懇談会が開催された。

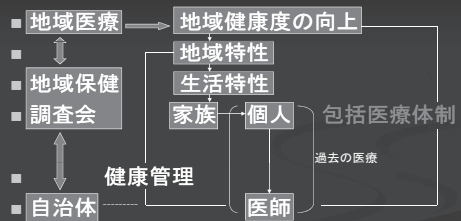
地域医療懇談会の目的

- 八幡平市の地域医療の課題を明らかにする。
- それぞれの課題に対応した具体策を検討。
- 今後の八幡平市の地域医療のあるべき姿、その将来像へ繋ぐことが大切であるとの合意がなされた。その内容の骨子は:
- ①八幡平市地域医療の現状
- ②八幡平市地域医療の課題と目標
- ③八幡平市地域医療の将来への展望 とした。
- これらの課題をWorking Groupで検討した。

平成17年(2005年)7月打ち合わせ 提言内容

- 医療の本質について。
- 地域医療を検討する場合の基本的考え方。
- 統合医療・地域包括医療の概念
- 地域・地域リハビリテーションの考え方
- 介護予防・廃用症候群への対応等
- 健康日本21への考え方と地域プロジェクト

医学の社会的適用:健康-医療



(武見太郎先生の方法論)

地域包括医療の理念

- 「地域に包括医療を社会的要因を配慮しつつ継続して実践し、住民の QOL (quality of Life, 生活の質) の向上を目指すもので、しかも、包括医療は治療(狭義の医療)を核としながら、その前段階の健康づくり、予防活動から、その後段階の地域リハビリ、在宅ケア、福祉活動すべてを包含するものである。ここでいう地域とは単なるエリアではなくコミュニティである。」
- (山口 昇先生)

地域リハビリテーションの新しい定義

- 「地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、生き生きとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉および生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う」
- (2001日本リハビリテーション病院施設協会)

地域医療のあり方

- 1. 単に医師や看護職の専門機能ではなく、医療を必要とする者の主体的行動によって初めて成立する活動である。
- 2. 健康にかかわるあらゆる事象の総合的取り組みのための活動である。
- 3. 常に実態と離反することなく、その解離をチェックするフィードバック機構を整えているものでなければならない。
- 4. その地域の文化体系に根ざすものであり、その地域の実態に即した機能の集合である。
- 5. 発展的構造に支えられる必要がある。

統合(包括)医療の概念

- 統合(包括)医療の定義(狭義):
- 「地域住民の生活の支援活動である。」
- 統合(包括)医療の理念
- 「病院・医院での行為は単なる診断と治療だけでなく、保健と福祉をも包含した、広い意味の医療でなくてはならない。」

介護予防の流れ

- ①健康増進・生活習慣改善
- ②生活習慣病予防・健康診断(検診)
- ③疾病の早期発見・早期治療
- ④早期リハビリテーション・自助自立
- ⑤廃用症候予防・寝たきり予防
- ⑥転倒予防・筋肉トレーニング・栄養サポート等

介護予防は新しい概念であり、
予防と治療の考え方が含まれる。

- 介護予防事業の経済支援等の課題が今後検討される必要がある。

医療制度改革の方向

- 2006年医療制度改革法が成立
- その背景として急速な少子高齢化の進行
- 大きな財政赤字がある
- 社会保障制度の長期的持続性の確保
- 医療費の伸びの適正化
- 国民の安全・安心を確保する社会保障の保持
- 後期高齢者医療制度の創設その課題

医療制度改革大綱とその後

- その基本的な考え方
 - ①安心・信頼の医療確保と予防の重視
 - ②医療費適正化の総合的な推進
 - ③超高齢社会を展望した新たな医療保険制度
- 良質な医療を提供する体制の確立
 - ①医療機関に関する情報の公表制度の推進
 - ②4疾病5事業等の地域医療計画の見直し
 - ③都道府県単位の保険者の再編・統合等の医療法ならびに健康保険法の一部改正
- 後期高齢者医療制度への国民の批判そしてその凍結政権交代後の見直しの方向が検討されております

健康日本21への参加等の課題

- 外出する機会を増やす(閉じこもりの予防)。
- 歩数の増加が重要。
- 地域の活動参加 ①21歩け歩け運動(松尾)
 - ②生き生きクラブ等
- 男性は仕事の関係で地域活動との結びつきが少ない。
- 80歳代になると地域活動との結びつきは女性のほうがはるかに多くなる。
- うつ病対策：自殺予防が重要な課題。

当面の課題

- 1)地域性を生かし、二次救急医療体制の構築を目指す
- 2)地域包括医療体制の整備
- 3)健康増進・予防・診断医療・リハビリテーション・終末期医療・介護予防等の連携
- 4)医療・福祉機能の分担調整
- 5)保健・福祉・行政および関連機関との連携

八幡平市地域医療懇談会の提言

- 地域特性による諸問題の検討
- 医療資源調査
- 疾病構造調査
- 救急医療体制の確立
- 地域住民意見の尊重
- プライマリケアと地域リハビリテーションの視点を重視
- 地域包括医療将来像の検討・計画策定

八幡平市地域医療の指針と展望

- 2009年2月に小冊子にまとめられ、公表された。
- 八幡平市地域医療の指針と展望
副題として 住みやすい地域をめざして
- 内容の骨子：
 - 第1章八幡平市地域医療の現状
 - ①地域医療②盛岡広域医療圏③医師確保対策
 - ④救急医療⑤疾病別死因及び健診受診状況
 - ⑥災害時の医療確保⑦地域包括医療体制：高齢者福祉・障害者福祉・地域福祉

八幡平市地域医療の現状と課題(1)

- 少子高齢化の中で市内医療機関の利用実態は外来は地元は2~3割、盛岡地区に3~5割の受診である。
- 入院患者数は地元は2~3割、盛岡地区に6~7割の実態を示している。
- 入院が盛岡に多いのは、高齢化社会が進む中で、多科にわたる疾病の有病率が上昇し、その対応する専門的医療機関が市内に少ないことがその要因であると思われる。

地域医療の現状と課題(2)

- 市内の医療機関の有機的な利用が必要であり、地域連携を重視した医療資源の活用が重要である。
- 耳鼻科、眼科、産婦人科等の開設を望む市民も多いが、専門医の不足で開設が困難であり、盛岡や鹿角の方面の医療機関に依存しているのが実情である。
- 産婦人科は隣接する町内の医療機関との連携が重要になりつつある。

地域医療の現状と課題(3)

- 医師不足の状態はOECDの中で日本が人口千人あたり、2.0で27位であり、さらに岩手県全般では1.7人(全国ワースト9位)であり、盛岡市は3.7人である。
- 八幡平市は0.7人であり、日本平均の約3分の1の医師数で地域医療を支えていることになる。
- 医師不足の課題が当面、解決されにくいことから、医師確保担当の部署を市庁内に設置し「10年で医師を倍増する計画」を提案へ。

保健・地域医療・介護・福祉の連携

- 地域包括(医療福祉)支援センター:
 窓口の一本化

- 地域中核病院(西根病院・東八幡平病院)
 Open Bedの採用による医師の診療協力

- 地域のかかりつけ医・診療所

- 保健福祉総合施設(スタッフの教育実習)の連携設置で地域住民への安心感の確保

八幡平市地域医療の目標そして将来への展望

- 第2章 八幡平市地域医療の目標
 ①救急医療②地域リハビリテーション
 ③地域医療④連携体制の整備⑤医師確保
- 第3章 八幡平市地域医療の将来への展望
 現実の様々な課題を明らかにしながら、この地域の地域医療の今後の進むべき道のりを示すことから、あくまでも地域医療の主人公は地域住民であり、地域住民が地域医療に参加する新しい「かたち」が求められる。

再び地域医療とは何か？

- 地域医療の原点：医療は医学の社会的適用であり、それには包括医療体制の実践が必要である。(日医 武見太郎会長)
- 地域医療の定義：
 「健康者も含めた地域住民全体を対象に、その健康の維持向上を目的として、健康増進、疾病予防から診断治療、リハビリテーションまでを含めて包括的・継続的に行われる組織的な活動の全体」

これからの地域医療のあり方

- 地域中核病院設置・再検討により地域医療を担う医師の一体的活動が可能となる。
- これらの施設を中心にして、各地域診療所のバックアップ体制を支援することが大切。
- これらの施設と地域包括医療支援センターの機能を一体化して、地域医療と保健・介護保険・高齢者福祉・障害者福祉との連携を強化することが望ましい。
- かかりつけ医と地域中核病院との共同診療連携体制の整備が必要となる。

地域医療の主人公は誰か

- 地域医療崩壊を如何に防ぐか具体策を検討が必須の重要課題である。
- この地域の医師不足の現状を地域住民に理解して頂く。全国平均の33%の医師数で八幡平市の地域医療は支えられている。
- 医師不足対策の具体化と方針が不明確であり、行政の対策組織が未整備である。
- 地域住民を主体に医師不足をはじめ地域医療のあり方への意見の集約の場を形成することが喫緊の最重要課題である。

子供と老人への医療の意義

- 子供きらうな
 自分も来た道じゃ
- 老人きらうな
 自分も行く道じゃ
- この言葉は人生の継続性を思い出させ、人生の中の自分の位置づけを考えるよすがとすべきである
- 生老病死は人間存在の根源的苦悩の問題である

人間の存在と医療者

人間は生老病死の苦しみを意識し、
それに打ちひしがれ耐えながらも、
そこに意味を発見し、価値を創造していくこと
のできる文化的・社会的・歴史的・霊的存在
である。

自然科学では人間存在のすべてを
説明し尽くすことはできない。医学・医療は
発展途上の科学にすぎず、医療者には
控えめで謙虚な姿勢が大切である。

癒しと支えと慰め

癒しとともに、支えと慰めをどうするか、
そのためには医療者の人格的資質や
教育医療の仕組み、医療と様々な分野
との連携等、取り組むべき問題が山積し
ている。

「ときに癒し
しばしば支え
つねに慰む」

この言葉の深さに学ぶべきである

生活は簡素に、思いは高く

- 21世紀後半以降の物質文明によってもたらされた過度に贅沢な生活は、質素に暮らすことに価値を見出してきた75歳以上の老人に居心地の悪さを感じさせてきている。
- 75歳以上を会員とする「新老人の会」のモットーは次の三か条です。(日野原先生)
- 一 愛し、愛されること
二 創めること
三 耐えること
(そして生活は簡素に、思いは高く)

さわやかに生きる秘訣

- ① 死なない程度の病気の経験を
- ② 「お帰みなさい」はう音で
- ③ ギブ・アンド・テイク、呼吸も行動も吐き出すことから
- ④ 新しいことに挑戦しよう
- ⑤ 子供に愛と平和を教えよう
- ⑥ 老いてこそ自由人
- ⑦ 「命」というのは、あなたの持っている時間
- ⑧ 自分をどう処分するか
- ⑨ 命は循環する(新老人の会：日野原先生)

本居宣長の詩・武士道の本質

- 敷島の大和心を
人間はば
朝日に匂う山桜花 (本居宣長)
- 恵まれた日本の島々よ/おまえの大和魂を/外国人が調べたく思うなら/ 言ってやれー朝日の大氣に香りを放って、美しい山桜が咲いているのだと。
- 新渡戸稲造先生の武士道はこれからの地域医療を考えるための指南書となると思う

新渡戸稲造先生に学ぶ

- 新渡戸稲造先生は岩手県盛岡市のご出身であり、若い時代の札幌農学校に学び、さらにアメリカ・ドイツに学び、「武士道」の著者としても有名であります。
- 先生は教育者、また国際連盟の事務局次長として活躍され、ベルゲンやキュリー夫人との交流や広い活躍は有名です。
- 岩手県出身の後藤新平に乞われて、台湾の製糖業の発展に尽くし、一方「地方学」を提唱した先駆者でもあります。

生命地域主義(Bioregionalism)

- 自分の郷土を愛しない人は、他人の郷土をも尊重しない。
自分の国を愛する心は、他の国々と平和に交わる心と何ら矛盾しない。
ナショナルとインターナショナルとは一つである。
今は国家の枠を越えて、
地方と世界の地方とが、共にこの地球上に
生きる郷土を愛する者として、
直接に交わり教え教わり、助け助けられ、
協同して進む時である。(新渡戸稲造先生)

月日は百代の過客にして、
行きこう人もまた旅人なり：松尾芭蕉
人生はまさに旅である：C. Andersen
I am a part of what I have met before.:
Tennyson



■■■ 第62回岩手県医師会親睦野球大会の開催の案内 ■■■

今年も、恒例の親睦野球大会が来る8月22日(日)北上市（江釣子球場）で開催されます。

我が岩手県医師会チームは、昨年度は奮闘むなしく1回戦敗退となりました。今年度は1回戦を突破したいと思います。皆様応援をお願いします。

日 時：平成22年8月22日(日)

受 付：午前7時～7時30分

主将会議：午前7時30分

開 会 式：午前7時45分

試合開始：午前8時45分より各球場

場 所：江釣子球場を主会場に全8会場

■■■■■■■ 第62回岩手県医師会親睦野球大会選手名簿（岩手県医師会） ■■■■■■■

No.	選手氏名	ポジション	所 属	No.	選手氏名	ポジション	所 属
1	高橋牧之介	総 監 督	高橋医院	11	金森 一郎	選 手	かなもり神経内科クリニック
2	及川 忠人	監 督	東八幡平病院	12	大津 友見	選 手	県立沼宮内病院
3	久保谷康夫	ヘッドコーチ	鶯宿温泉病院	13	高橋 邦尚	選 手	ゆとりが丘クリニック
4	植田 修	主 将	植田内科消化器科	14	高橋 真	選 手	高橋内科胃腸科クリニック
5	西島 康之	選 手	西島医院	15	立本 仁	選 手	立本整形外科
6	佐々木久夫	選 手	佐々木医院	16	北上 明	選 手	北上脳神経外科クリニック
7	上原 充郎	選 手	上原小児科医院	17	荒井 啓史	選 手	栃内第二病院
8	木村 秀孝	選 手	木村内科クリニック	18	金井 猛	選 手	金井耳鼻咽喉科
9	栃内 秀彦	選 手	栃内第二病院	19	久喜 寛之	選 手	栃内第二病院
10	篠村 達雅	選 手	篠村医院	20	山口 淑子	選 手	山口クリニック



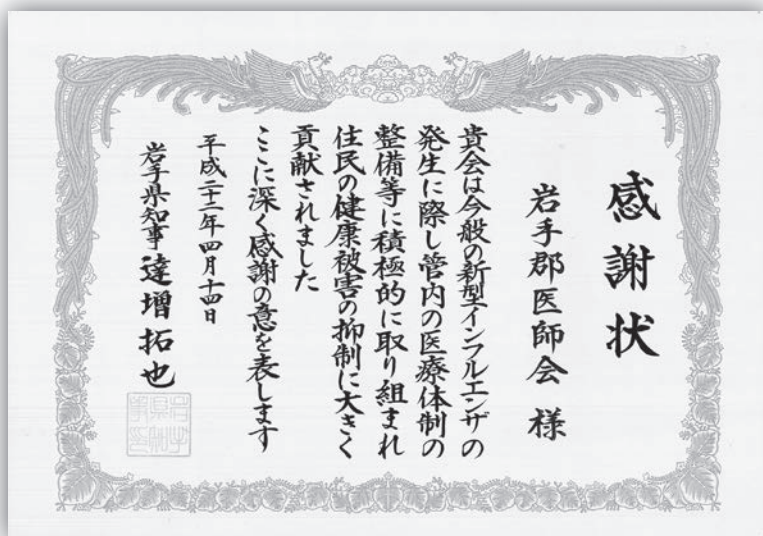
フレ！フレ！

岩手郡!!

感謝状

昨年度の新型インフルエンザ発生に的確に対応した岩手郡医師会が評価され、岩手県知事より感謝状を頂きました。

会員の皆さん、大変ご苦勞様でした。



■■■■■ 会員の入会・退会・異動等 ■■■■■

【入 会】

(平成22年 6 月16日現在)

入会月日	所 属 施 設 名	氏 名	年 齢	区 分	備 考
4 月 1 日	葛 巻 病 院	山 本 雅 彦			北海道十勝より
4 月 1 日	自 宅 会 員	那 須 和 広			岩手医大より
4 月 1 日	栃 内 第 二 病 院	久 喜 寛 之			久慈市医師会より
4 月 1 日	アットホームくずまき	黒 田 晋			久慈市医師会より

【異 動】

(平成22年 6 月16日現在)

退会月日	所 属 施 設 名	氏 名	異 動 の 内 容	
			異動区分	異動後の施設名
4 月 1 日	老 健 あしろ苑	杉 本 圭士郎		老健 ヴィラ加賀野
4 月 1 日	滝 沢 中 央 病 院	山 高 毅 久		老健 あしろ苑
6 月 1 日	高 橋 医 院	高 橋 牧之介		自宅会員

【退 会】

(平成22年 6 月16日現在)

退会月日	所 属 施 設 名	氏 名	備 考
3 月 31 日	東 八 幡 平 病 院	鈴 木 俊 彦	退職（二戸市医師会へ）
3 月 31 日	東 八 幡 平 病 院	泉 本 浩 史	退職（大阪市高槻へ）
3 月 31 日	県 立 沼 宮 内 病 院	佐 藤 芳 行	退職（盛岡市医師会へ）
5 月 4 日	栃 内 第 二 病 院	涌 澤 玲 児	死亡退職
5 月 31 日	アットホームくずまき	守 屋 克 良	退職（北上市医師会へ）
6 月 7 日	アットホームくずまき	黒 田 晋	死亡退職

会員数の状況

6 月16日現在の会員数 90名

編 集 後 記

8年間にわたり、岩手郡医報の編集委員長を担当してくださった山口淑子先生、ごくろうさまでした。本年度理事、役員の改選が行われ岩手郡医報の編集委員会のメンバーも替わりました。山口前編集委員長のご苦勞の反省から、94号から編集委員長は毎号編集委員が持ち回りで担当することになり、今回は紺野が担当しました。毎回編集委員長が替わることでなにか目新しさを出せることも期しております。新しい企画も検討中です。ひきつづき会員の先生方には記事、寄稿等をお願いすることになります。これまで以上のご協力をお願いいたします。（紺野敏昭）

岩手郡医報編集委員会

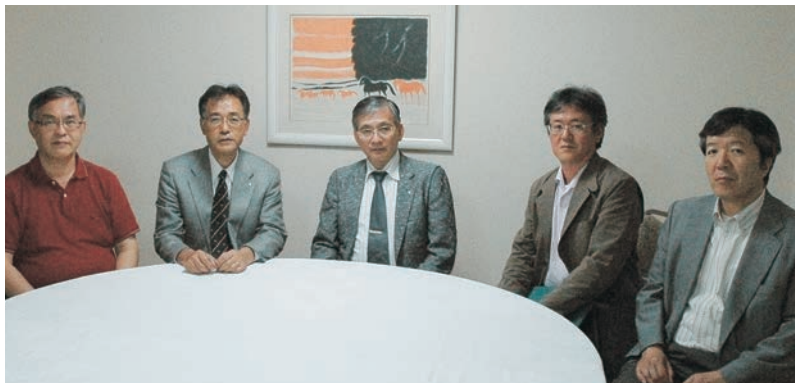
紺野敏昭

高橋邦尚

高橋 真

植田 修

（ _____ は編集委員長）



左から高橋邦尚、紺野敏昭、及川忠人、高橋 真、植田 修

岩手郡医報：No.94／2010年6月発行

発 行：社団法人 岩手郡医師会

発行責任者：岩手郡医師会会長 及 川 忠 人

事 務 局：〒028-7303 八幡平市柏台二丁目8番2号東八幡平病院内

TEL 0195-78-2607 FAX 0195-78-2555

<http://www.iwategun-med.or.jp>

制 作：社団法人 岩手郡医師会広報部